

# 阿 蘇 山

## 1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは 2 (やや活発な火山活動)でした。

## 2 概 況

中岳第一火口の状況は、湯だまりの表面温度が 70 前後で経過し、小規模な土砂噴出が発生するなど、火山活動はやや活発な状態となっています。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

## 3 噴煙活動の状況(図 1)

・噴煙活動に特段の変化はなく、噴煙は白色・ごく少量で高さは概ね 100m で推移しました(最高は 300m)。

## 4 地震・微動活動の状況(図 1 ~ 3)

- ・火山性地震の月回数は 241 回(3 月: 432 回)と減少しました。
- ・火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅いところのほか、中岳第一火口より北側 4 ~ 5 km に求まりました。
- ・孤立型微動の月回数は 1,237 回(3 月: 2,246 回)と減少しました。
- ・火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。

## 5 火口や噴気地帯の状況(図 1、図 2)

- ・中岳第一火口の湯だまりの表面温度は、28 日の現地観測で 70 と高い温度を観測しました。また、湯だまりの南西側では高さ約 1 m の土砂噴出を観測しました。
- ・湯だまりの量は、降雨の影響で 3 月 31 日の約 7 割から 4 月 6 日には約 8 割に増加しました。その後は減少傾向が続いています。湯だまりの色は緑色で変化はありませんでした。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

## 6 地殻変動の状況(図 4、図 5)

GPS による地殻変動の連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

## 7 地磁気全磁力の状況(図 6、図 7)

気象庁地磁気観測所による全磁力連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

---

資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号: 平 17 総使、第 503 号)。

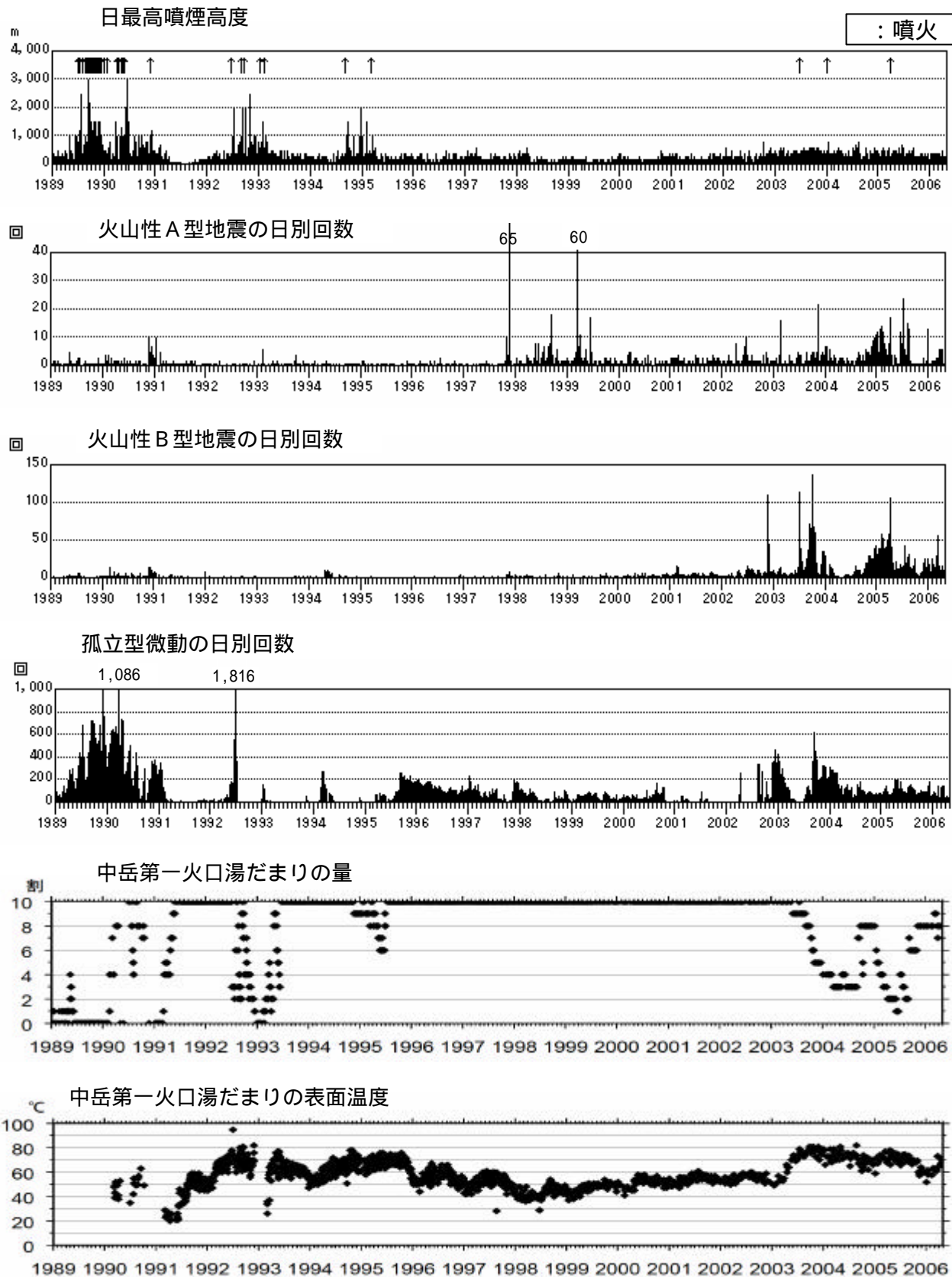
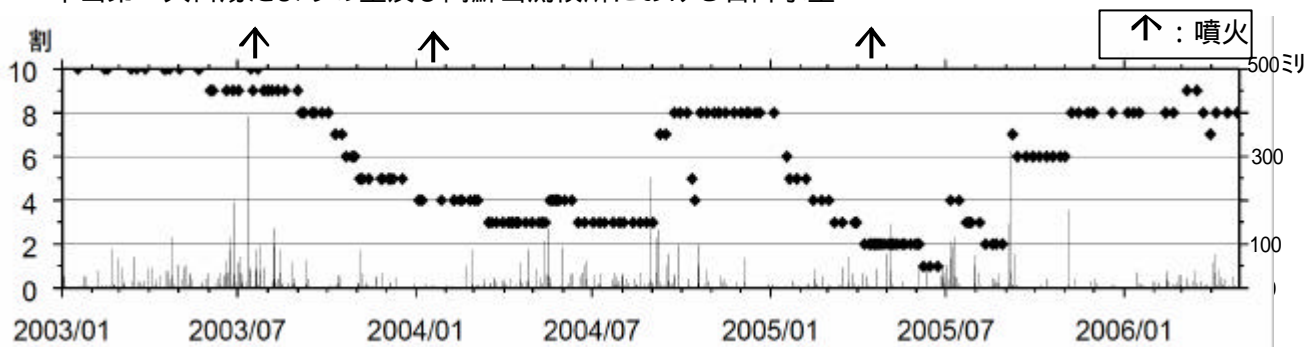


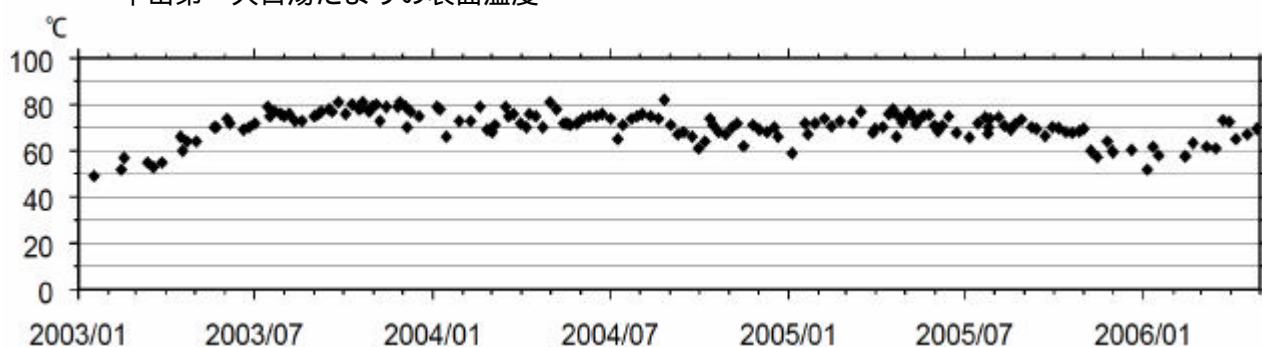
図 1 火山活動経過図(1989 年 1 月 1 日～2006 年 4 月 30 日)

噴煙の状況に変化は認められず、高さの最高は 300m でした。  
 火山性地震および孤立型微動の発生回数は、3 月に比べ減少しました。

中岳第一火口湯だまりの量及び阿蘇山測候所における日降水量



中岳第一火口湯だまりの表面温度



30 分間平均振幅 (A 点南北成分)

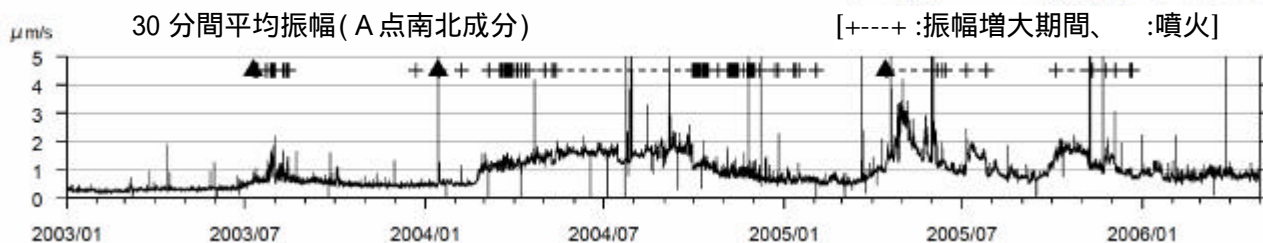


図2 火山活動経過図(2003年1月1日～2006年4月30日)  
 湯だまりの表面温度は28日に70℃を観測するなど、高い状態で推移しました。  
 湯だまりの量は、降雨の影響で4月6日には約8割に増加しました。  
 火山性連続微動の振幅は小さい状態が4月も継続しました。

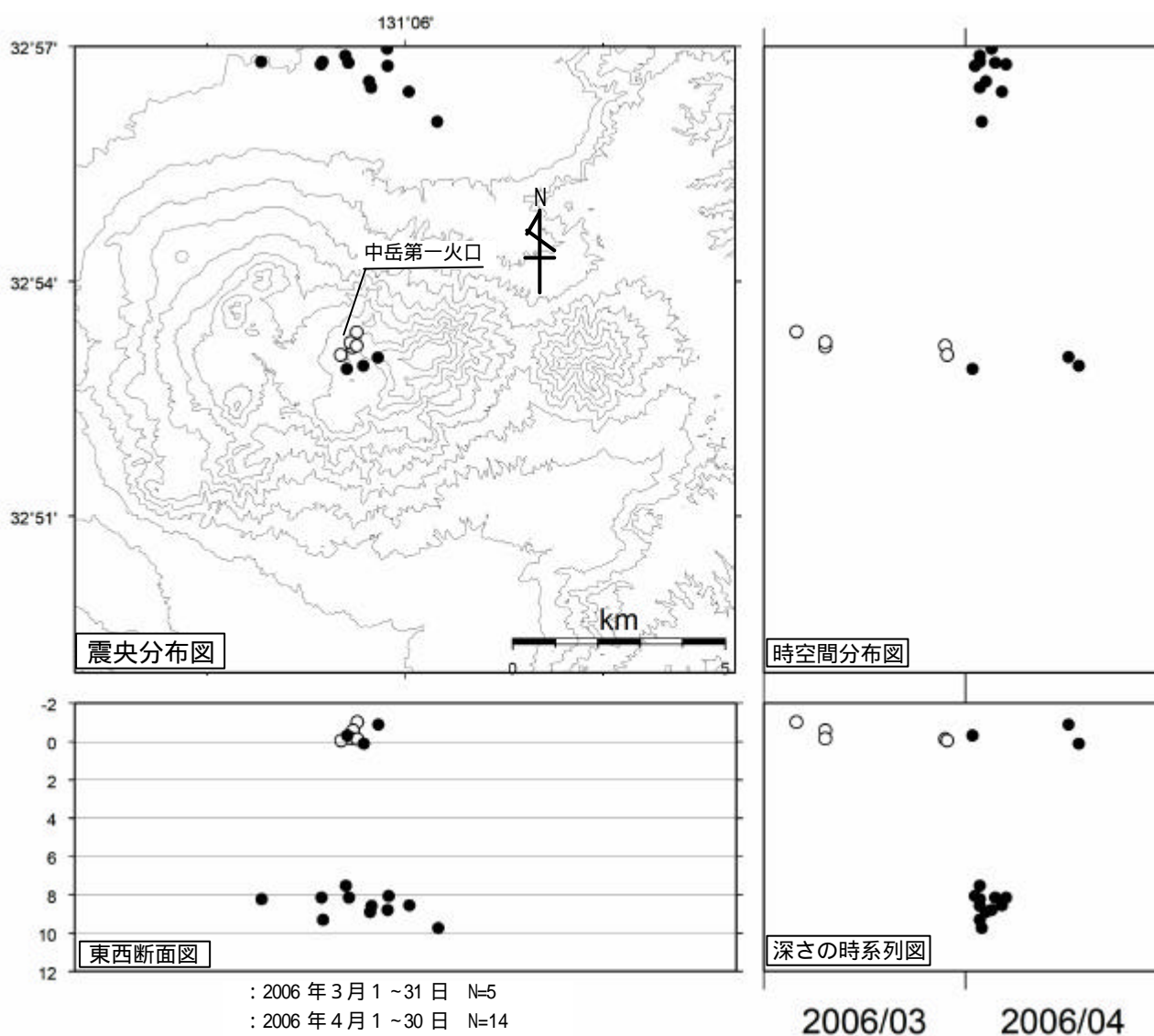


図3 火山性地震の震源分布(2006年3月1日~4月30日)

- 火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅い所のほか、中岳第一火口より北側4~5 kmに求まりました。

(本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成しました。)

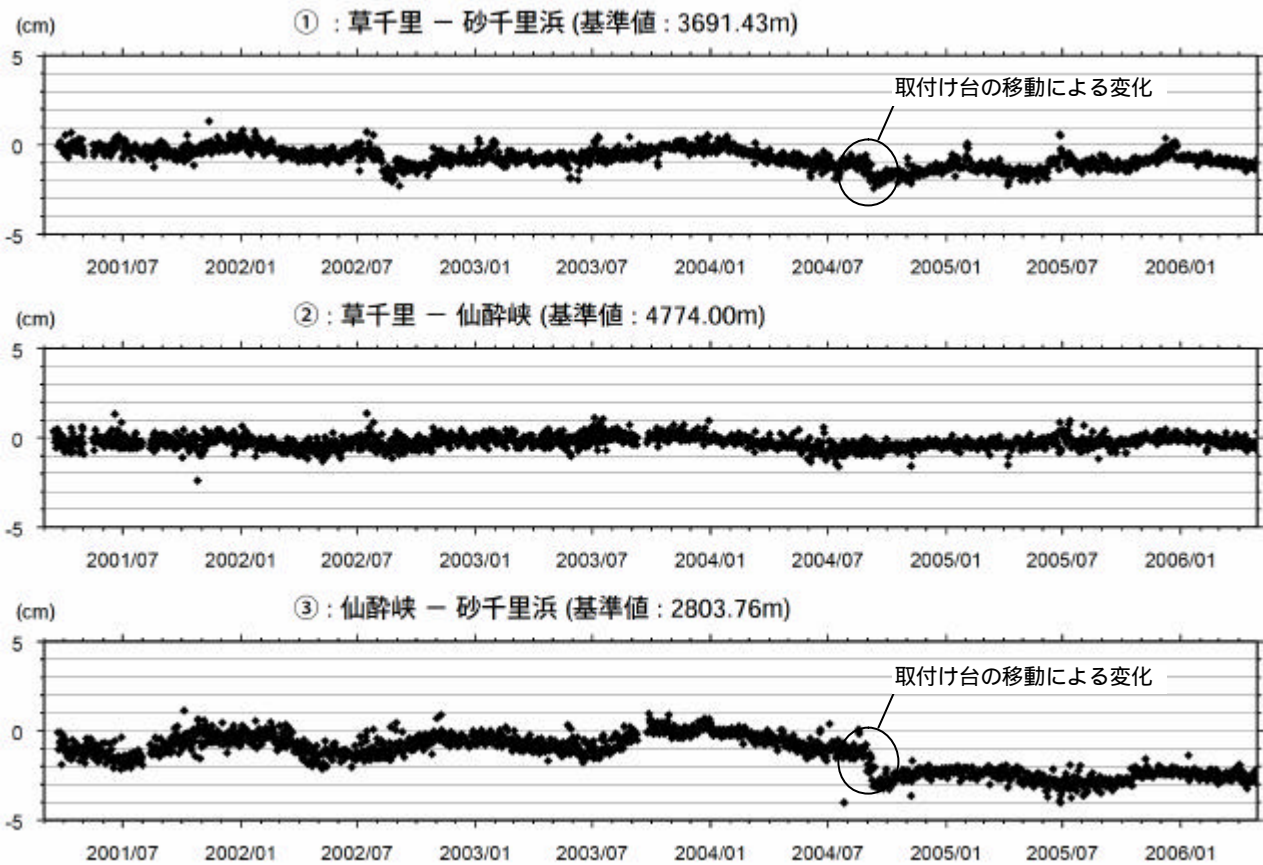


図4 GPSによる基線長変化(2001年3月15日~2006年4月30日)  
各観測点間の基線長には、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

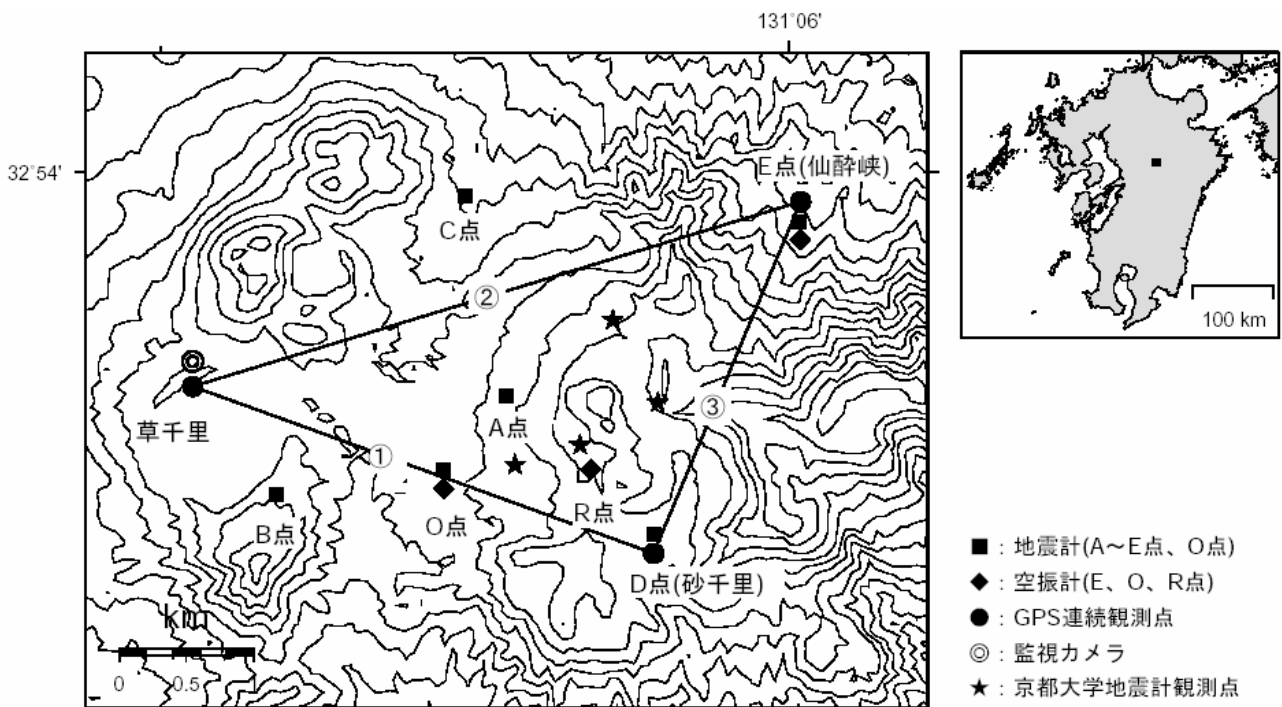


図5 観測点位置図

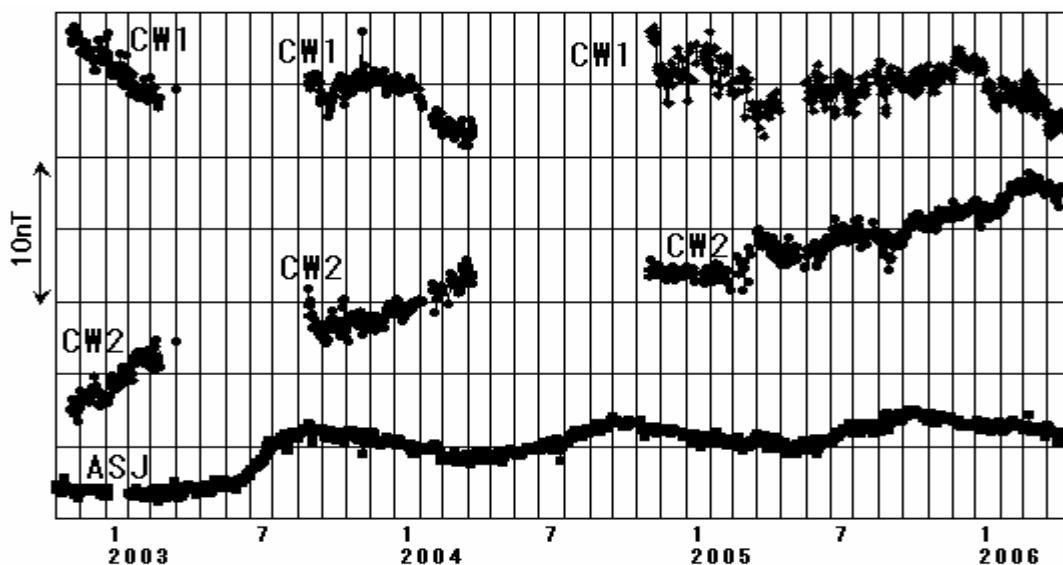


図6 全磁力連続観測の結果 (2002 年 11 月 ~ 2006 年 4 月)

■ 火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

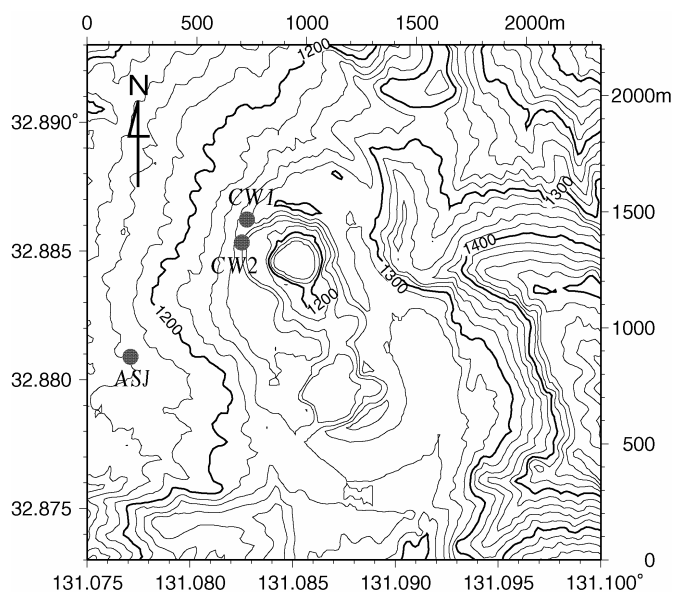


図7 全磁力連続観測点配置図